

7月の大雨

今年も東多久町の一部地区で避難

7月13日から14日にかけての大雨で、牛津川妙見橋(東多久町羽佐間)は氾濫危険水位を超え5.25メートルに達したため、市は14日午前8時に羽佐間・古賀平・古賀山・古賀一地区に避難勧告を発令しました。このため自主的なものも含めて59世帯86人が東多久公民館へ一時避難しました。降り始めからの総雨量は北多久町岸川地区で450ミリを超え、昨年に続いて記録的な大雨となり、市内各所では道路の通行止等で交通機関にも影響をおよぼしました。これから台風シーズンに入ります。今後も急激な気象の変化には、ご注意ください。



▲道路一面が川のようになり、一部通行止めなど交通に影響
(東多久公民館前の国道：午前7時頃撮影)



▲氾濫危険水位を超えた牛津川
(左奥は妙見橋：午前10時頃撮影)



▲市内数箇所です砂崩れ等の災害も発生、写真は土砂で塞がれた市道中の原・四下線(8月上旬には復旧の予定です)

多久ロータリークラブが 小中学校に図書を贈る

多久ロータリークラブは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を願い6月12日から25日にかけて、市内の小中学校10校を訪問し、10万円分の図書約70冊を寄贈しました。

図書は、各学校の希望に沿って選んだもので、古川眞澄会長と会員2人が7冊を届けた東部小では、江頭一寛校長が「学校に本が増える活動をしていただきありがたい」と感謝。貸出図書として朝読書や家読書などで大切に扱われ、子どもたちの頭と心の栄養となっています。



▲江頭校長(右)に図書を手渡す古川会長
(6月12日、東部小で)

市長コラム

温|故|創|新|

Message for citizen

記録的豪雨の難を逃れる

それにしてもひどい豪雨だった、全国各地で大きな被害や犠牲者が出た。そんな中、市内では大きな被害もなかったことは信じ難いほどだ。

北部九州に停滞している梅雨前線が活発化し、激雨となったのは7月13日深夜。特に市内北部で雨が激しく、岸川の雨量計では14日の午前1時台には時間雨量58ミリに達した。さらに2時台には22ミリ、3時台に31ミリと続き、約3時間で実に111ミリという凄まじい雨。次に少し小康状態になったが、再び7時台に54ミリ、8時台に26ミリと続き、8時間で204ミリの集中豪雨で、降り始めからの総雨量は実に464ミリに達した。河川水位も急激に上昇し、氾濫が危惧された。

午前3時前に国土交通省武雄河川事務所長とも緊急連絡をとりあい、3時に市役所に災害対策本部を設置。雨雲の動きと河川水位を分析し、午前8時に東多久の一部地区に避難勧告を発令した。

その後、小雨になり、有明海が満潮でなかったのに河川水位も下がり、12時30分に勧告を解除し、難を逃れた。もし豪雨が市内全域で継続したなら、相当な地区での冠水、浸水になったと思われる。

6月6日の防災訓練も効を奏した。おかげで災害対策本部の対応や避難等を円滑に行えた。

報道によれば、近年、世界各地で「深層崩壊」という現象が起きているらしい。地層の深い部分に入りこんだ雨水が、地すべりを超える地層崩壊を発生させ、甚大な被害を生む現象で要注意だ。自然の猛威から完全に逃れることは困難だが、人知を尽くし、防災、減災に万全を期したい。皆さまのご理解ご協力をお願いします。

大雨後は猛暑の日々。熱中症にご用心。(俊彦)